

「戦前の教育」＝「軍国主義教育」の復活を許さない！

－「教育勅語」朗唱の「瑞穂の國 記念小學院」問題の核心－

浅田 勝美(日中友好協会大阪府連理事)

大阪の護国神社で毎年4月に開催される「同期の桜を歌う会」。その会場に塚本幼稚園(森友学園)の園児が出演。「軍艦マーチ」を演奏し、「教育勅語」を朗唱していることを聞きました。早速、ユーチューブを見て唖然としました。「今の日本で、このようなことが許されて良いのか。」「事態はここまで進んでいるのか。」

その幼稚園には天皇家の写真が掲示され、「日の丸」が掲げられています。毎日行われる朝礼で幼児に「君が代」や軍歌「海行かば」を斉唱させ「教育勅語」を朗唱させています。安倍首相に心酔している理事長は、改憲右翼団体「日本会議」大阪代表委員の籠池(かごいけ)康則氏。その園がこの4月に日本初で唯一の神道の「瑞穂の國 記念小學院」を豊中市に開校するという。当初の名称「安倍信三記念小学院」で寄付金を募り、安倍昭恵夫人が名誉校長としてあいさつ文を寄せています。その土地は国有地ですが、タダ同然で提供されたことが疑惑をよび、国会でも真相が究明されようとしています。

籠池理事長が「小学校でも朗唱をする」と言明している「教育勅語」は、天皇中心の国体思想を根本に置く教育です。大日本帝国憲法と一対のものとして神聖なとりあつかいや朗読が戦後すぐに止められ、1948年6月19日に衆議院では排除、参議院では失効確認がされています。この「教育勅語」を日本国憲法・教育基本法下の現在の義務教育に持ち込むことが果たして許されるのでしょうか。

私たちは、「教育勅語」を根底にした戦前の教育＝軍国主義教育を復活させる策動を傍観できません。真相を広く府民に知らせ、「子どもたちを再び戦場に送るな!」「民主教育を守れ!」の声を広げていきましょう。